



喜多登

北陸と大阪

今月十四日に開業するJR北陸新幹線(東京→金沢間)が大きな話題になっています。

そんな北陸と大阪は、かつては往来が盛んで、文化的にも商業的にも深く結びついていました。一つには大阪は天神信仰の篤い地として知られますが、北陸も加賀藩主前田家が天神様のご子孫といわれている事から、天神様を大切にしており、一家に一つは天神様の掛軸や木像があり、子供の誕生時には床の間に飾って、我が子の学業成就を祈ってお祝いするのが今も習わしとされています。

また金沢は日本海側最大の港町として繁盛し、江戸時代には北前船を通じて、天下の台所の大阪とは頻繁に行き来がありました。かつての梅田の名産であった菜種もこうした船によって北陸方面に運ばれており、北陸と大阪は様々な面で繋がりがありました。

現代ではそれほど深く北陸と大阪は関わりがあるように思われませんが、実は様々なところで今も縁は生きついでており、西天満や北浜の料亭の創業者の方々、また大阪の、お豆腐屋さん、お風呂屋さんの方々の多くの方が実は北陸出身の方が多いのです。

これらの仕事は辛い作業が多かったので敬遠されがちでしたが、それら辛い仕事も進んでやるといふ北陸の方の気質が、頑張り屋鼻屑の大阪人にはこよなく愛され、今では大阪文化の一翼を担うほどになりました。

こうした北陸との深い繋がりが、今も大阪の元気を支えていると思うと、今後の北陸新幹線の大阪延伸にも期待したいと思います。

茶屋町菜の花のイベント

今年も、三月下旬から四月上旬にかけて茶屋町・鶴野町界隈を菜の花で彩る、「菜の花の散歩道二〇一五」が開催されます。期間中は茶屋町の地域の皆さんで育てられた菜の花が街角に飾られ、今月二十八日(土)、二十九日(日)の両日には茶屋町ハンドメイドマーケットが開かれます。

また、この菜の花が咲いている期間である四月上旬までの限定で、茶屋町の当宮御旅社ではイライラ鎮めの御守「菜種守」を授与しております。春のお散歩がてら、ぜひ菜の花咲く茶屋町へお出で下さい。

氏地案内「万歳町」

当宮は氏地として、旧北野村村域である、北野連合、梅田東連合と、万歳町、西天満六丁目、中崎西二丁目一部、曾根崎一丁目一部の氏地さまとして鎮座いたしております。

氏地案内の三回目は当宮御本社の北に位置します万歳町についてです。

町名の由来は、この町にかつて架かっていた「萬載橋」という石橋が由縁で、現在もこの橋は当宮御本社の稻荷社参道に遺構として残っております。浪華八百八橋のうち掘割にかかる橋として『浪華名所ひとり案内橋尽くし』にも記載されており、架橋年が安政二年(一八五五)である事から、八百八橋の遺構の中で現存最古の欄干とみられています。

そんな橋に由縁する万歳町ですが、近世までは牛宿という牛を預かる小屋があり、また萬載橋の架かっていた掘割は市場への物資を運ぶ運河の役割もあり、かつての万歳町は物流の拠点であったようです。

現代では付近の環境が良くなった事で、急激にマンションが増えており、今では都会生活を楽しむ町として非常に魅力が高まっている町といえます。

神社携帯サイトのQRコード

ドコモ、ソフトバンク、au、モバイルPC 対応



編著 網敷天神社 禰宜(神主)

白江 秀 知

